

第2節 小串構内の立会調査

焼却棟地盤調査に伴う立会調査

調査地区 小串構内

調査期間 平成4年11月10日

調査方法 工事施工時に伴う立会調査

調査結果 工事は焼却棟新営に先立ち、建設予定地である医学部北端でボーリングによる地盤調査をおこなうものである。ボーリング調査であるため地下への大きな影響は考えられなかったが、位置確認のため埋蔵文化財資料館が立会った。

ボーリングは、No.1（深さ15.31m）とNo.2（深さ25.22m）で行われた。No.1は現地表から2.35mまで造成時の埋土で、埋土下の堆積状況は2.35～5.80m暗青灰色シルト質砂層、5.80～8.80m暗青灰色砂岩風化層、8.80～10.10m空洞、10.10～10.80m黒色炭質頁岩風化層、10.80～11.70m暗茶褐色炭質頁岩層、11.70～12.70m暗灰色頁岩層、12.70～15.31m砂岩である。No.2も現地表から4.00mまで埋土で、埋土下の堆積状況は、4.00～6.00m暗灰色シルト質砂層、6.00～8.10mは暗灰色シルト質砂とシルトの互層、8.10～9.20m白灰色粘土質砂層、9.20～9.70m暗青灰色砂岩風化層、9.70～10.55m石炭層、10.55～11.20m暗茶褐色炭質頁岩層、11.20～11.60m石炭層、11.60～13.50m暗茶灰色頁岩層、13.50～17.30m暗灰色砂岩層、17.30～18.75m石炭層、18.75～25.22m暗灰色頁岩層である。

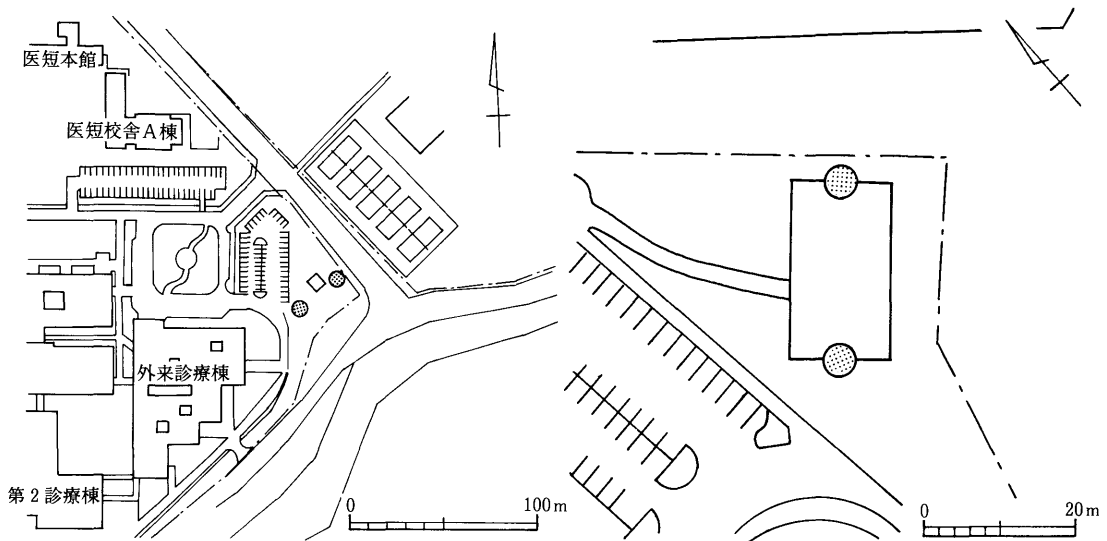


Fig. 62 調査区位置図